北海道新聞　30年11月16日（朝刊・小樽後志）

介助用リフトや障害者スポーツ体験

福祉職の魅力知って

小樽で18日「eふくしフェス」

福祉職の魅力を伝える催しが18日午前10時～午後4時、ウイングベイ小樽（築港）5番街1階で初めて開かれる。介助用リフト体験や介護ロボットの展示などを行う。主催者は「きつい、汚い、臭いという『3K』のイメージを払拭（ふっしょく）したい」と話している。

「eふくしフェス　こんなことも福祉だったんだ！」は、社会福祉法人懇話会「しあわせネットワークおたる」（福森和千代代表）が主催する。同会は市内の高齢者・障害者・保育施設計17団体で構成。昨年10月、福祉の課題解決を目的に発足し、生活困窮者への物資の供給や市内の高校への出前授業、施設見学の受け入れに取り組んできた。

福祉の仕事の魅力を伝える「eふくしフェス」のポスター

催しでは、義肢装具の展示と装着体験、ボッチャやフライングディスクなど障害者スポーツの体験コーナーを用意。知的障害のある利用者が職業訓練の一環で作ったはちみつや雑貨の販売もある。午前11時半からは車いす利用者らでつくる札幌のヨサコイソーランチーム「動（と）・夢（む）・舞（い）」が演舞を披露する。高校生向けの就職相談や社会人向けの転職相談窓口も設ける。

催し名の「e」は英語のエンジョイの頭文字で、福祉の仕事を楽しく知ってほしいとの思いを込める。催しの責任者で、小樽育成院特別養護老人ホームやすらぎ荘の森政春施設長(61)は「大変なイメージが先行しているが、福祉用具の発達などで『きつさ』から脱却している」と来場を呼び掛ける。

入場無料。問い合わせは事務局のある小樽育成院☎0134・28・2500へ。

（有田麻子）

※商大くん参加予定です。